

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 12月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502447		
法人名	佐々木産業有限会社		
事業所名	グループホーム あげぼのあゆみホーム		
所在地	〒721-0952 広島県福山市曙町五丁目5番25号 (電話) 084-954-5704		
自己評価作成日	平成29年12月5日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3471502447-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年12月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>庭には季節の野菜や花を植える事もでき、またウッドデッキを活用することで閉鎖的にならないようにゆったりとした生活をしていただけるように工夫しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>ホーム建設前に代表者が海外（北欧デンマーク）を視察され、それを参考に災害時など住環境のことを踏まえ、平屋建てにした経緯がある。何事も利用者と職員が一緒に行うという方針で、常に利用者本位で物事を考えている。敷地内には、畑があり、家庭菜園をされ育てた野菜を食事に生かしている。利用者の個々の役割（洗濯物たたみ、作品づくりなど）を生かし、作品に関しては、近隣の小学校の文化祭で出展され、とても好評である。地域との関わりに重点を置き運営されており、地域からの協力者が増えている状況である。災害対策として、南海トラフ大地震のこともあり、災害時の避難場所として、ホーム裏に高台（4メートル）建設をされた。今後は、介護度の軽減を図るため、オムツを1枚でも削減できるように、利用者のケアの充実に、より一層力を入れていきたいと考えている。</p>

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>毎月第二火曜日 定例会議で確認をしている。出席者が全員となることが課題である。基本理念を申し送り時にスタッフで唱和している。</p>	<p>開所当初（H14.11）の理念を全職員で話し合い、改訂した経緯がある。職員全員でつくり上げた”2カ条”を共有することで実践に繋げている。管理者と両ユニット主任との定期的な話し合いを行い、理念に関して、維持・向上する取り組みをしている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>利用者の重度化が進んでいるが、町内会の行事に出来るだけ参加している。町内一斉掃除や盆踊り、文化祭等に参加している。防火訓練に地域の方に参加を頂き、実施している。事業所主催の行事は回覧板で地域に案内し、地域の住人も多数参加している。</p>	<p>町内行事（夏祭り・秋祭り・文化祭・大掃除など）地域の催し物への参加をされている。また、地域のボランティア、カラオケ（百歳クラブなど）の訪問もあり、日常的に交流をしている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>運営推進会議に町内の役員や民生委員等に参加して頂き、認知症の症状や取り巻く環境を説明している。課題として検討している。</p>	/	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>取り組みや検討している事案を議題に挙げ、地域、福山市、包括、ご家族の協力を頂き多数の意見を得る中で、スタッフ会議で話し合いの場をもって、問題の改善に繋げたり、新たな取り組みを模索するなど効果が出ている。</p>	<p>参加者が集まりやすい奇数月の最終月曜日（19：00～20：00）の時間帯で行われ、多数の参加メンバーにより開催されている。毎回、議題（テーマ）を設定し、ホームでの現状報告をするなか、参加者から助言を頂いている。</p>	
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	<p>年に6回の運営推進会議に、2名の参加を頂いている。（今回は4回参加）随時担当者と連携して指導を頂いても助かっている。</p>	<p>運営推進会議には、2名の方が毎回参加されている。利用状況を報告したり普段困りごとなどあれば、その都度、連絡や直接出向くなど、協力関係を築けるように努力している。</p>	

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>常時意識して、全体会議やユニット会議を通して、勉強の機会を設けている。玄関の施錠は、特定の場合（夜間）を除き開錠している。</p>	<p>全体会議や、ユニット会議を通して、適宜、身体拘束について研修を行っている。家族より、「介護服を使用して欲しい。」要望があったが、職員間で話し合い、創意工夫しながら対応した経緯がある。歩行不安定の方は、ベッド横にセンサーマットを活用し、安全確認をしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>スタッフが研修に参加し、その後全体会議や運営推進会議で一緒に考えている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>利用者それぞれの事情に合わせ、福祉事務所などに相談し、あり方を模索している。スタッフが研修に努める必要がある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時や解約時等の際は、丁寧に説明し、理解して頂けるように話をしている。また、救急医療情報を事前にご家族から聴取に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議に交代で出席してもらい、利用者やご家族の意向を運営に反映させている。面会時にもしっかり話を聴くように心がけている。</p>	<p>入居時に、本人および家族の意向を把握したり、面会時などに、家族の生の声を聴くように努力されている。記録は”業務日誌・個人日誌”に記載し、要望を検討・改善するように努めている。毎月、家族宛てに、ホームでの近況報告を送付している。</p>	

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、スタッフとの定例会で事業運営方針、研修報告、スタッフの意見の聴取を実施している。</p>	<p>管理者は、今年（H29.4）に、配属したばかりで、全職員との面談を実施した経緯がある。チームワークが大事と考え、日頃から話しやすいように努めている。要望などがあれば、その都度、代表者と協議している。この度、年1回は職員親睦会が必要と思われ実施され、とても好評であった。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>定時スタッフの意見を聴取昇給に利用している。 介護度軽減に努めているスタッフに昇給制度を設ける。 研修経費支援を実施している。 個々のスタッフの事情に合わせた勤務となるよう、意見交換をしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>スタッフの習熟度などに合わせた研修機会の確保に、配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>今後の取り組み課題としている。 近隣の施設と防災訓練などを通して、交流をしている。また、認知症を学ぶ会に参加し、ネットワークづくりを始めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前にアセスメントをおこなっているが利用後にも、再度、アセスメントを行い要望、ニーズなどの確認を行い、傾聴の姿勢を心がけ、本人の思いを受け止めるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居者前に自宅を訪問し、生活状況を把握家族、本人と面談で、要望などを聴き、サービス内容の説明を行っている。不安な点については、家族とも相談しながら、本人の状態に合わせた柔軟な対応をすることを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前のアセスメントを丁寧に行い、必要とされているサービスをみきわめ、家族、本人にグループホームでのサービス内容を具体的に説明している。必要に応じて、他の施設のサービス内容を説明し、サービスを選択できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の潜在能力を見極めつつ、家事の一環として、衣食住に関するホームの仕事を分担してもらい、役割を自覚してもらうようにしている。畑仕事が出来る人には、スタッフと一緒に野菜作りをしいてもらい、採れた野菜は食材にして、収穫の喜びを感じてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	より良いサービス内容への検討のため、家族には、ホームでの生活状況を具体的に伝え、知恵をだしてもらい、サービスの実施にあたっては、物心両面での協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	兄弟、子供、孫などご家族をはじめ、友人、近所の知人など、幅広く馴染みの人々が気軽に面会できるように配慮し、スタッフ一同も面会者を温かく迎える様に配慮している。行事に家族の参加を呼び掛けている食事に課題がある人には、兄弟を招待しての食事を開催し、喜ばれた。	地元行事の夏祭り・秋祭り・文化祭に参加し、知人・友人に会う機会がある。本人より「知人に会いたい。」という要望があり、連絡を取り合い、知人などの訪問の実現ができた。近隣の施設や、近隣からの知人が定期訪問され、今まで慣れ親しんだ人と関わるようにしている。	

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常生活場面で、利用者同士がお互いを気遣い、「お世話したり、されたり」の親しい関係が築けるように努めている。集団で楽しく行うレクリエーションを通して、利用者同士の温かい交流に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院で退去後も、お見舞いに行ったり、連絡を取り、近況を聴き、必要に応じて相談に乗っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人への直接の聞き取りをはじめ、日常の会話や表情、態度などを注意深く観察することにより、希望や意向を把握に努めている。そのためにスタッフ間の情報共有、連携に努めている。ホームの日課の中で「今、それをしたくない」という人には、本人の意思を尊重し、柔軟に対応している。	必ず入居前には、ホームの見学をお願いしている。日々の関わりのなかで、丁寧に本人の想いを聴くようにしている。本人の意向把握が難しい場合は、家族や日々関わっている職員から把握し、本人中心・本人本位で物事を考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のカンファレンスにとどまらず、生活の中での困難があった場合などにも、本人、ご家族から、これまでの生活環境、生活歴、習慣などをカンファレンスし、ケアプランに反映させる様に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録に一日の生活状況、心身状況を詳しく記し、その都度、振り返ってケアプランに反映している。介護度の軽減を目指して、本人のストレングスを発揮し又は伸ばしていくよう積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>三か月に一回、モニタリングを行い、全スタッフの参加の下、ユニット会議にてカンファレンスを行っている。医師からは往診時に、ご家族からは来所時に、ご意見をいただいている。</p>	<p>本人のできる能力を生かした活動や役割（洗濯物をたたむ、作品づくりなど）づくりとなるよう具体的な計画内容となっている。「トイレに行きたい。自分で食べたい。」～したい”という要望があれば、実現できるように取り組んでいる。方向性が迷わないように、計画作成を再確認する職員を配置している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人の記録や申し送りノートに、日勤・夜勤別に記入し、全スタッフが目を通す事で、情報を共有している。日々の記録、カンファレンスの記録をもとにモニタリングを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人やご家族の要望に応じて、リハビリ等グループホームでも可能なサービスを柔軟に紹介している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の夏祭り、秋祭り、文化祭にスタッフと共に参加している。地域の方のカラオケボランティアの受け入れもしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用時に、ご家族の希望の上でかかりつけ医を決めている。かかりつけ医による往診を2週間に一度受けている。急変時には、24時間の対応が可能である。</p>	<p>今までの病歴のこともあり、入居時にかかりつけ医を決めているが、往診体制や、緊急時の事を踏まえ、大半の方がホームの協力医となっている。往診体制（週1回、ユニット毎）と24時間の緊急時の連絡体制も整っている。</p>	

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ病院の看護師と24時間の連携が出来る体制を敷いており、利用者に異変があれば指示を仰ぎ、必要があれば受診している。週に一度、状態の確認、情報交換を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはスタッフが付き添い、医師に詳しい状況報告をしている。入院期間中には、病院と連絡を取ったり、お見舞いに行くなどして、経過をその都度確認している。退院時には、引き続きを綿密に行い、スムーズにホームでの生活・療養の移行できるように配慮している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用時に、重度化及び終末期に際しての施設として出来る事、出来ない事について説明を行っている。今後の課題として、看取り指針の作成、看取りの体制づくりをしていきたいと考えている。</p>	<p>看取りの経験もあり、看取りはする方針であるが、医療行為など必要な場合は、医療施設同様の対応は難しいため、主治医に意見を聞き、家族と検討を行っている。今後は、看護職員の配置など、看取りの体制づくりをしていきたいと考えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急マニュアル・緊急連絡体制に基づき、それに従って機敏に対応できるように、スタッフがユニット会議での話し合いを重ねている。今後の課題としては、実践力の向上に向け、定期的な訓練の機会を増やす必要がある。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年に2回の防災訓練を、スタッフ、利用者全員の参加で、地域住民にも呼び掛けて実施している。裏の避難台への避難訓練も実施した。全体会議の場では、折に触れて、防火意識を高めるための話し合いをしている。</p>	<p>地域住民に呼びかけ、訓練時には一緒にされている。災害の発生に備えて、備蓄関係を3日間分準備されていた。災害対策として、南海トラフ大地震のこともあり、災害時の避難場所として、ホーム裏に高台（4メートル）建設をされた。火災訓練に加え、年1回は、地震・津波訓練を実施している。</p>	

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格を理解・尊重しプライバシーを保てる様な声掛け、対応をしている。	一人ひとりの個別性を把握している。人生の先輩でもあり、敬意ある言葉掛けと、態度には十分気をつけて対応している。職員が講師となり、社内研修をされている。気づきがあれば、各ユニット主任が注意しあう環境でもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションにより、利用者の思いを尋ねたり、考えを聞いたりそれが叶えられる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの身体機能や体調に応じて、その日を楽しく過ごせるように手作業、散歩やレクリエーションに誘っている。夜眠れていない方には、横になる声掛けなどを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合わせて洋服を入れ替えを行ったり、ご家族に連絡をしたりしている。本人がその日に着たいと選んだ服を着てもらうように支援を行っている。髪をとかしたり、髭を剃る声掛けしたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けが出来る利用者と一緒にやっている。畑で収穫した食材があれば、食事中に話題にしたりして季節を感じてもらえるようにしている。	昼・夕の副食（おかず）は外注にて食材がホームに届いている。毎週土曜日は、3食手作りで提供され、ホームの菜園で育てた野菜を利用して、食事に生かすこともある。座位が可能な方は、食事時に車いす→椅子へ座り直し、正しい姿勢で食事ができるように支援されている。	

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量、水分量を記録している。刻み食、ミキサー食の方には、補助食品を用いて、(エンシュアなど)必要量確保出来るように支援している。食欲がない時には、ヨーグルト・プリン等食べやすい食品を用意している。水分も本人の希望や様子を見て、通常摂取以外にも提供をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>自分で出来る場合は、声掛け、誘導、見守り、歯茎のブラッシングの援助をし、自力では難しい方は、口腔ケア用ウェットティッシュ・スポンジを使用するのケアや歯ブラシでの歯磨き、義歯のケアの支援を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄のチェックを行い、パターンや習慣を把握。随時声掛けやトイレ等への誘導をしている。全介助でも、訴えがある場合はポータブルトイレへ誘導を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄を基本とした支援をしている。トイレは、1ユニット(定員9名)に3箇所有り、3箇所共に車いす使用者でも可能なスペースを確保している。水分補給、体操などを取り入れ、便秘予防に取り組んでいるが、今後は更に、食物繊維が多く含む食材を活用した食事の工夫を考えている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄状況(個々の状態・リズムに合わせて)、水分量、食事量を記録して、個々の利用者に合わせた対応をしている。室内外を歩いたり、お手伝い、レクリエーション等をして体を動かしてもらうように工夫をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者の希望の日数や時間帯・体調に配慮して、好みの湯加減で入浴して頂いている。予定日以外にも、状況や必要に応じて入浴して頂くこともある。</p>	<p>利用者の重度化により、湯船に浸かる方が少なくなっている。週2~3回の午後(15:00~16:30)3人の入浴をさされ、ゆったりと入浴できる時間を確保している。特に乾燥肌の方は、保湿剤を使用されている。</p>	

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの状況や生活習慣に応じて、夜間安眠出来るように、寝具や室温調節を行ったりしている。日中も状況に応じて休息をとっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々の薬の目的や副作用、用法、用量を理解している。誤薬がない様に服薬する際は名前・日付を声に出して、本人、スタッフに聞こえる様にまた再度確認している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの生活歴や自分の力を生かせる役割を担えるように支援している。(洗濯物を干したり、たたんだり等)体を動かしたり(体操・風船バレー・掃除)、声を出したり(歌・口腔体操)などを支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>一人ひとりの状態に合わせて、車椅子や徒歩で室外を散歩したり、花見、盆踊り、菊花展等季節を感じる外出も毎年行っている。</p>	<p>毎年企画として”福山城の菊花展”に全員外出されている。重度化により、外出の頻度が少なくなってきているが、両ユニットを行き来したり、テラスで過ごすこともあり、季節を感じて頂く取り組みをホーム内でされている。近くのコンビニへ行き、コーヒーを買いに行く方もいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>買い物に同行時、支払いやお釣り、品物の受け取り等、利用者の認知度の状態に合わせて支援している。</p>		

自己評価	外部評価	ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>自分で伝えることが出来ない人が殆どなので、スタッフがご家族にあてた手紙で毎月の近況報告を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共同スペースは整理整頓し、移動の妨げになる物がないように努めている。季節に合わせた共同制作の貼り絵や習字を貼りだしたり、行事の写真を展示したりして、馴染みある空間を作っている。</p>	<p>利用者と職員が共同で、毎日の掃除や壁面には季節毎の飾り付けを作成され飾られている。作品は、近くの小学校の文化祭へ出展され、とても好評である。利用者一人ひとりが心休まり我が家のように生活されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>個々の好みに応じて、テレビの観たい人、一人で過ごしたい人、本を読みたい人などさまざまな志向があり、それぞれに合った居心地の良い場所への誘導に努めている。テレビの音量を適切に調整して、静かに過ごしたい人への配慮を行っている。重度で日中居室で臥床する時間が長い人には、孤立しないようにスタッフが声掛けをしたり居室で一緒に歌を歌ったり、短い時間でも離床して他の人と交流が図れるように努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>個々の好み、生活歴などに応じて、居室には、家族の写真、好きな読み物、カレンダー、置物、馴染みある空間を作っている。</p>	<p>洋服ダンス・整理ダンスは準備されている。「入居時に必要な物と持参物」を参照し、必要物品を準備している。車いす使用者でも十分なスペースが確保されている。本人が安心して過ごせる場所となるよう本人や家族と相談しながら自由に物品などを持ち込まれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>杖や手すりを使っての歩行、歩行器での散歩、車椅子を自走しての移動などが、安全にできるように、障害物を置かず、スペースを確保している。施設の表記を大きくして、どこに何があるかわかるようにしている。一日のスケジュールをホール内や居室に張り出し、各居室に時計を配置して「いま 何をする時間か」よくわかるようにしている。</p>		

V アウトカム項目(ひまわり) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあけぼのあゆみホーム

作成日 2018.01.17

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員全員で理念を唱和し、徹底を図っているが、今以上に実践に繋がっていききたい。	職員一人ひとりの個人目標を定め、理念が実践につながるようにする。	①職員の個別面談の時間の確保。 ②個人目標を決め、定期的に振り返る機会を作る。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。